2013年春季の青森県沿岸におけるマイワシの豊漁について

水産総合研究所資源管理部部　主任研究員　**和田　由香**

2013 年春季に青森県沿岸各地にマイワシが大量に来遊しました。八戸市（主に旋網）を除く 2013 年の青森県沿岸におけるマイワシの漁獲量は、1,847 トンと過去 5 ヶ年平均の 15 倍でした（図 1）。このマイワシは、いったいどこからやって来たのでしょうか？また、かつてのようなマイワシの豊漁時代がやって来るのでしょうか？これらについて検討してみました。

1. マイワシの来遊経路について

4 月～6 月の主要港（新深浦町漁協本所、鯵ケ沢、平舘、蓬田、佐井、関根浜、尻屋、尻労、八戸）におけるマイワシの半旬別漁獲状況の推移をみると、日本海側から漁獲され始め、日数の経過と共に陸奥湾～津軽海峡、太平洋の順で漁獲が移行していました。同時期の他県の漁獲状況と比較すると、日本海側は山形県→秋田県→本県日本海→青森県陸奥湾～津軽海峡の順に、太平洋側では岩手県→本県太平洋の順に漁獲が移行していました。

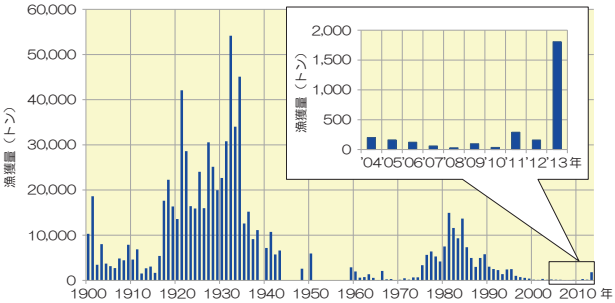

図 1　八戸市を除く青森県沿岸におけるマイワシ漁獲量の推移（県統計資料より）

県内各地の体長組成と肥満度（図 2）を比較したところ、八戸（太平洋）のマイワシは他の海域より魚体が大きい傾向を示したことから、青森県に来遊したマイワシは日本海側から来るものと太平洋側から来るものとの 2 つのグループがあると考えられ、2013 年春季の日本海～尻労では日本海を北上してきた群を、八戸では太平洋を北上してきた群をそれぞれ漁獲していたことがわかりました。

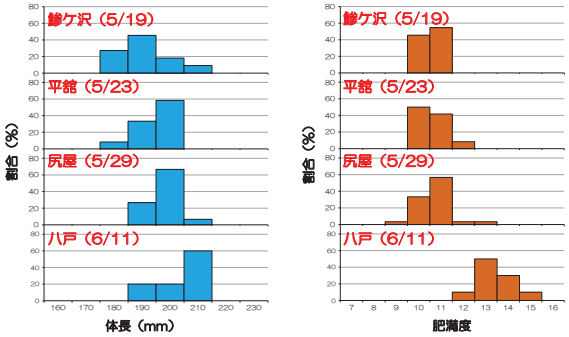

図 2　各地区のマイワシの体長組成（左）及び肥満度組成（右）

2. マイワシ資源の今後の展望

マイワシ資源がかつてのような高水準期へ移行するためには、加入量の増加、親魚量の増加とそれに伴う産卵海域の拡大などの条件が必要であり、更に、図 3 に示すとおりマイワシ資源は海洋環境が寒冷レジームに増加することから、寒冷レジームに移行することが必要と考えられています※。今のところ、各環境指標値をみても寒冷レジームに移行したとは言えない状況であり、残念ながら、マイワシ資源の完全復活は、もう少し先になりそうです。

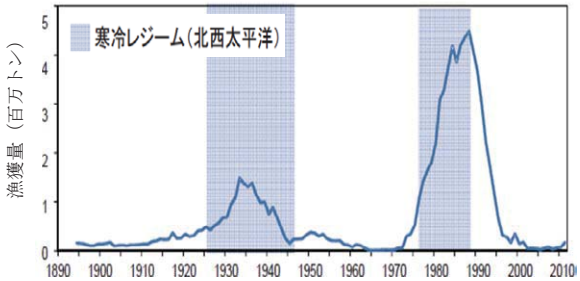

図 3　日本のマイワシ漁獲量の 時系列※

※独立行政法人水産総合研究センター　プレスリリース H24.10.31「マイワシ太平洋系群の増加傾向続く」より引用